



とよたの未来を
考えよう!

豊田市都心地区空間デザインをかんがえる。

カスタマイズとよた!

第4回 市民ワークショップ

日時: 2月19日(日) 開場: 9:40

開始: 10:00

場所: 豊田市役所東庁舎7階大会議室

プログラム

- 10:00 ご挨拶
- 10:10 前回WSの振り返り
- 10:20 豊田市都心地区空間デザイン基本計画(素案)説明
今後のスケジュールについて
- 11:00 意見交換会
- 11:45 アドバイザーよりコメント
- 11:55 終了のご挨拶

WS 開催概要

日時：2016年9月4日（日） 10:00～12:30

場所：豊田市役所東庁舎 7階大会議室

参加者：43名（6-9名×6班）

座長：小林正美氏（明治大学副学長）

星卓志氏（工学院大学教授）

星野裕司氏（熊本大学大学院准教授）

【つくるチーム】

大藪善久、足立真一、馬場睦、東田研介、松蔭香織 (NSC)

熊谷玄、成富文香 (stgk) 渡邊篤志 (WAO) 番場俊宏、坂田旭 (abanba)

【つかうチーム】

泉英明、園田聡、岸本しおり (HBP)

運営：豊田市・日建設計シビル (NSC)・ハートビートプラン (HBP)

プログラム

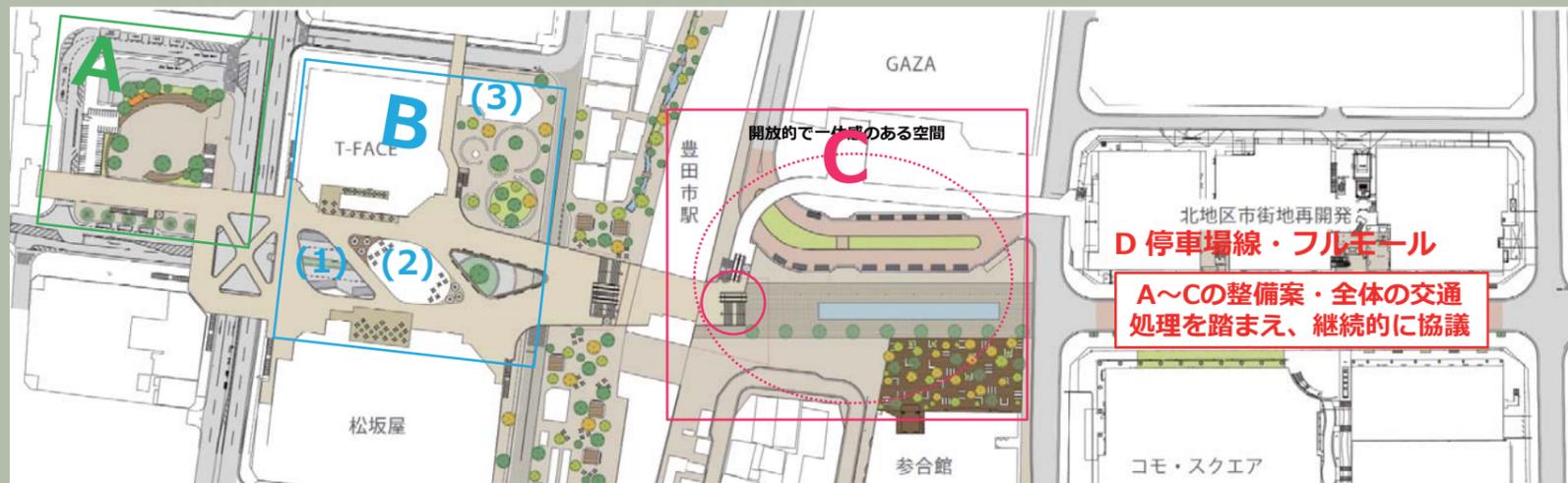
- ①ご挨拶
- ②第2回WSの振り返り
- ③豊田市より説明
- ④未来部会より発表
- ⑤つくる・つかうチームの提案内容
- ⑥各班ワークショップ・発表
- ⑦まとめ

今回のワークショップでは、前回WSの振り返りの後、豊田市から交通シミュレーションの結果と、段階的整備の考え方が示されました。その後、地域を代表する豊田の都心を育てる会未来部会からの提案・

意見が出され、それらと共に、つくる・つかうチームの提案内容が説明されました。最終整備の姿を見据えながら、どこで誰がいつ何をすることをテーマに、テーブルディスカッション方式にて議論を行いました。豊田市駅西口デッキ・豊田市東口まちなか広場・停車場線において、様々なシーンで、誰が何をするのかの多くの意見が出され、それに対し、各施設との連動やマネジメントの仕組みづくり、整備への反映が必要と提案されました。

豊田の都心を育てる会・未来部会の提案・意見

豊田市都心環境計画・都心地区空間デザイン『広場のつくり方・デザインについて』（中間報告）



A 新豊田駅東口広場

アクティビティ・スポーツ（目的性の高い空間を目指す）



C 豊田市駅東口まちなか広場

開放的で一体感のある空間（通りではなく広い空間）



B 豊田市駅西口デッキ

(1) 豊田市駅西口バスターミナル

グランドセントラル
明るく開放感のあるバスターミナル



(2) 豊田市駅西口デッキ(上)

隣接する商業施設と連動した、憩いの空間

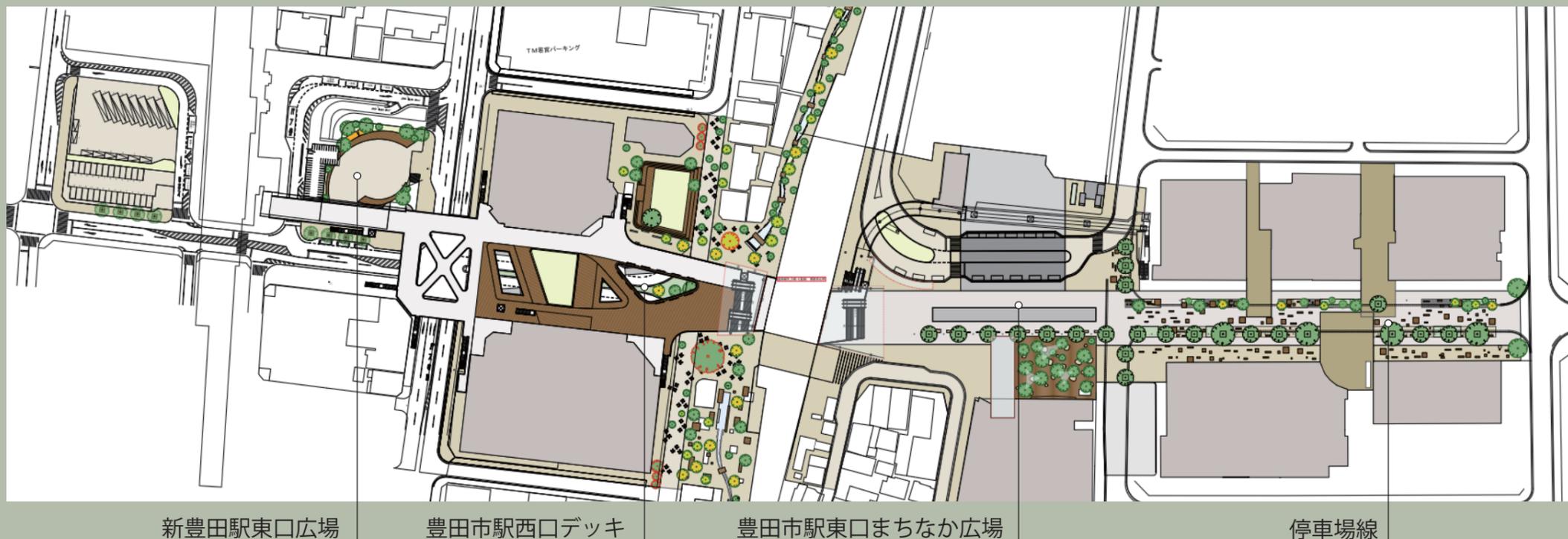


(3) シティプラザ

バスターミナルやT-FACEと連動した活用



最終将来形・最新検討プラン



各班ボード写真

1班



2班



WS が出た主な意見

	【豊田市駅西口デッキ】	【豊田市駅東口まちなか広場】	【停車場線】
平日朝	通勤通学客が朝食	高齢者がラジオ体操・朝ヨガ	近隣住民の散歩
平日昼	子育てママが子どもを遊ばせながら飲食	親子が遊びと食事を出来る場所	アート・花・彫刻の販売
平日夕	旦那と待ち合わせの場所	中高生が放課後勉強	中高生カフェデート
平日夜	30-40代サラリーマンの飲み会集合場所	ビジネスマンの飲み会（飲食の充実）	家族が映画後に食事
週末朝	体を動かすイベントの開催	図書館と連動した読み聞かせイベント	農家の人による朝市
週末昼	フリーマーケットの場所	パブリックビューイング	ライブイベント
イベント	ハローウィンパーティ 流しそうめん	拳母まつり対応 トヨタ自動車のカーイベント	主婦のためのマルシェ 映画鑑賞会

3班



4班



アドバイザーのコメント

- WSを通して市民の意見が共有出来てきているように感じる／その場所にあった広場のあり方として、様々なバリエーションがあるのが良い
- 施設との連動やエリアマネジメント などソフトの話が考えられていることも素晴らしい
- 今回WSのように『誰が何を』など想定してデザインされるのは最近のことであり、それを踏まえても豊田は最先端の事例になるであろう
- 家『1stPlace』 職場『2ndPlace』 お気に入りのカフェ等『3rdPlace』に続き、公共空間を『4thPlace』として捉える考え方が重要である
- 物理的な『空間』に経験や活動を積み重ねることで自分たちの『場所』にしていくことが大切である
- 良質な食事の提供、市民の健康のための場所、アート披露の場所など様々なアクティビティを起こせるポテンシャルがある
- 用がなくても来てもらう、滞在時間を増やしてもらう工夫が大切／建物の特徴に合わせた連動やにじみ出しのあり方がある

5班



6班



【中間報告】平成28年度 都心環境計画の進捗状況をお知らせします！！

平成 28 年 3 月に都心環境計画を策定・公表し、今年度は、各施設再整備の事業化に向け、空間デザイン設計を進めています。現在の進捗状況として、市民ワークショップや推進会議で検討状況と検討された空間デザイン案をお知らせします。

今後は、市民ワークショップ等により、広場等各施設の基本プランの検討をしていきます。また、全体の統一的なデザインとして、空間デザインの専門家の意見も踏まえ、検討を進める予定です。

■これまでの都心環境計画の取組経過

市民ワークショップ (公開開催・ホームページ公表) 過去の回覧(カスタマイズとよた！NEWS LETTER)の振り返り	豊田市都心環境計画推進会議 (公開開催・ホームページ公表)
<p>〇キックオフ 日時：2016年5月15日(日) 10:00~12:45 場所：参合館6階ホール、参加者：44名 内容：第1部：つかうチームの昨年度成果報告とともに、つくるチームの紹介・プロポーザル提案内容の説明を行いました。 第2部：『『とよたらしさ』ってなんだろう?』をテーマに、テーブルディスカッション方式(6班)で、とよたの街にどんな場所が必要か議論しました。 最後にグループによる発表を行いました。</p>	<p>〇第1回 日時：2016年6月23日(木) 16:00~17:30 場所：市役所南庁舎5階 出席者：32名 内容： ●市民ワークショップ(キックオフ、第1回)の検討内容の報告をしました。 主に、東西一体の主動線を主眼においたデザインコンセプトの考え方、豊田市駅駅舎の自由通路の拡張に係る市民ワークショップの検討内容について議論しました。 その結果、「豊田市駅駅舎自由通路の拡幅する方向で今後の協議を進めること」について確認されました。</p>
<p>〇第1回 日時：2016年6月5日(日) 10:00~12:00 場所：参合館6階ホール、参加者：48名 内容：●小林座長(明治大学)より、姫路駅前広場における市民参加デザインプロセスのレクチャーを受けました。 ●つくるチームから駅周辺のデザイン案が提案されました。 これをふまえ、参加者からは、多くの貴重な意見を頂きました。</p>	<p>〇第2回 日時：2016年8月3日(水) 10:00~12:00 場所：市役所南庁舎5階 出席者：30名 内容： ●市民ワークショップ(第2回)の検討内容の報告をしました。 主に、空間デザインコンセプトとして、毘森口・矢作口のあり方、各施設の基本プランに係るデザイン案(市民ワークショップ案)について議論しました。 その結果、「空間デザインコンセプト及び各施設の基本プランの方向性」について確認されました。</p>
<p>〇第2回 日時：2016年7月24日(日) 13:30~16:30 場所：市役所東庁舎7階、参加者：49名 内容：●公共空間を使いこなすための官民連携における新しいまちづくりのあり方について、星先生(工学院大学)よりレクチャーを受けました。 ●つくる・つかうチームから提案内容の説明を行いました。 ●『東西のあり方』『各広場のつくり方』をテーマに、テーブルディスカッション方式(6班)にて討議しました。各班において、毘森口の広場である市駅西側エリアや、矢作口の広場である市駅東側エリアについて、イメージ写真も使用しながら、どのような空間のつかい方が出来るか考えました。</p>	<p>〇第3回 日時：2016年9月4日(日) 10:00~12:30 場所：市役所東庁舎7階、参加者：43名 内容：●市から交通シミュレーションの結果と段階的整備の考え方の説明を行いました。 ●豊田の都心を育てる会未来部会から提案の説明を行いました。 ●つくる・つかうチームから提案内容の説明を行いました。 ●最終整備の姿を見据えながら、『どこで誰がいつ何を』をテーマに、テーブルディスカッション方式(6班)にて議論しました。豊田市駅の西口デッキ・東口まちなか広場・停車場線において、様々なシーンで、誰が何をするのかの多くの意見が出され、それに対し、各施設との連動やマネジメントの仕組みづくり、整備への反映が必要と提案されました。</p>

問い合わせ

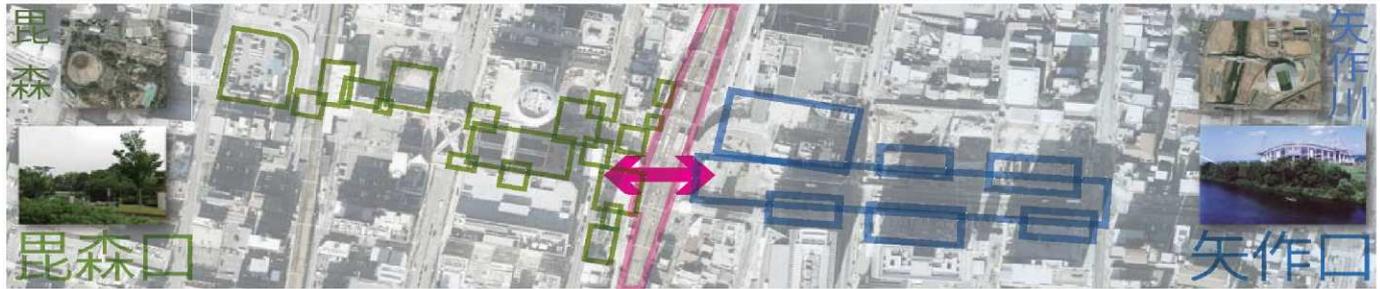
ご不明点等は、「豊田市 都市整備部 都市整備課」までお問い合わせください。
TEL：34-6622 FAX：34-6764 e-mail：tosiseibi@city.toyota.aichi.jp

■空間デザインコンセプト、豊田市駅周辺の段階整備イメージ

※以下は、検討中のものです。今後の検討により変わる場合があります。

◆空間デザインコンセプト

空間デザインとしては、豊田市駅を東西のエリアに分けて考え、駅から毘森公園、毘森神社側のエリアを毘森口、駅から矢作川と豊田スタジアムまでを矢作口と位置づけます。毘森口は、現状ある空間を利用し、個々の空間が連鎖する居心地の良い空間とし、矢作口は、一体感のある広場空間を市民参加でつくっていき、日常利用のほか、様々なイベントを受け入れる「祝祭性の獲得」を目指します。



毘森口	日常の使われ方	矢作口
利用：まちを「利用」するための場づくり		まちに「参加」するための場づくり：参加
連鎖：たくさんの「小さな広場」とそこに入り込む森	空間構成	「おおらかで一体感のある」ストリート型広場空間：連続
居心地：「日常」＋「居心地の創造」	空間のあり方	「日常」＋「祝祭性の獲得」：祝祭

◆豊田市駅周辺の段階的な整備イメージ (豊田市駅周辺の主要事業(計画12年間)の展開イメージ)

- 【前期6年間】北地区再開発ビルオープン、停車場線(全幅供用開始)、新豊田駅東口駅前広場など
- 【後期6年間】西口ペDESTリアンデッキ改築(バスターミナル整備含)、豊田市駅舎改築、豊田市駅東口駅前広場等整備、停車場線フルモール化整備など

当面の目標(平成37年度～)



◆変化のポイント

- ・西口バスターミナル整備に合わせ、西口デッキを改築
- ・豊田市駅東口の駅前広場・まちなか広場が整備
- ・豊田市駅舎の改修整備
- ・新豊田駅西口(交通機能強化)のリニューアル整備

将来の構想イメージ



※国道155号や停車場線のフル、昭和町線の分断については、社会実験を繰り返して行い、周辺への影響等について確認した後に、本格運用に移行。

◆変化のポイント

- ・国道155号(一部区間)
⇒トランジットモール化(バス通行のみ可)の運用、もしくはフル化(歩行者空間)
- ・停車場線のフルモール化の運用
⇒昭和町線の分断とセット

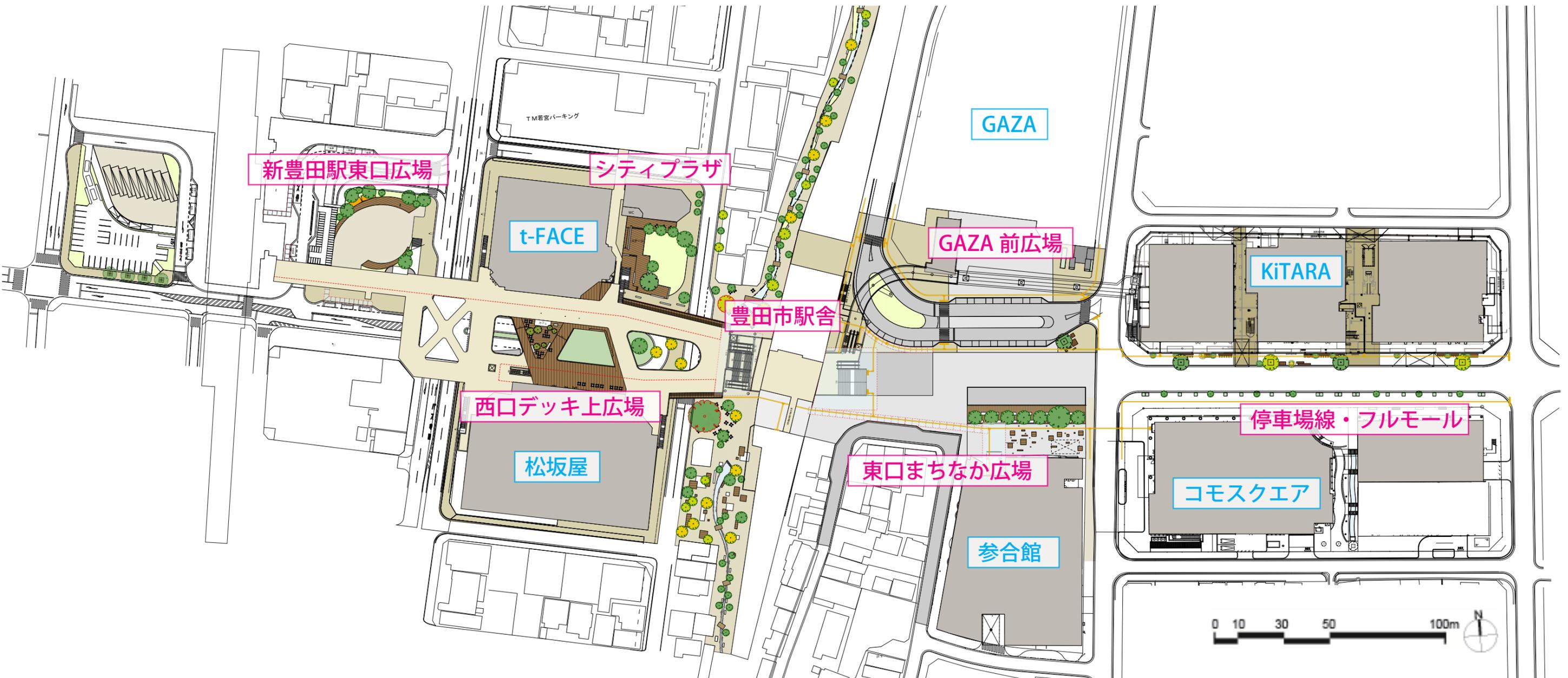
当面の目標

2025年の完成イメージです。

西口デッキをはじめとし、順次整備が行われます。

2月19日
第4回市民WS配布資料

バスターミナル

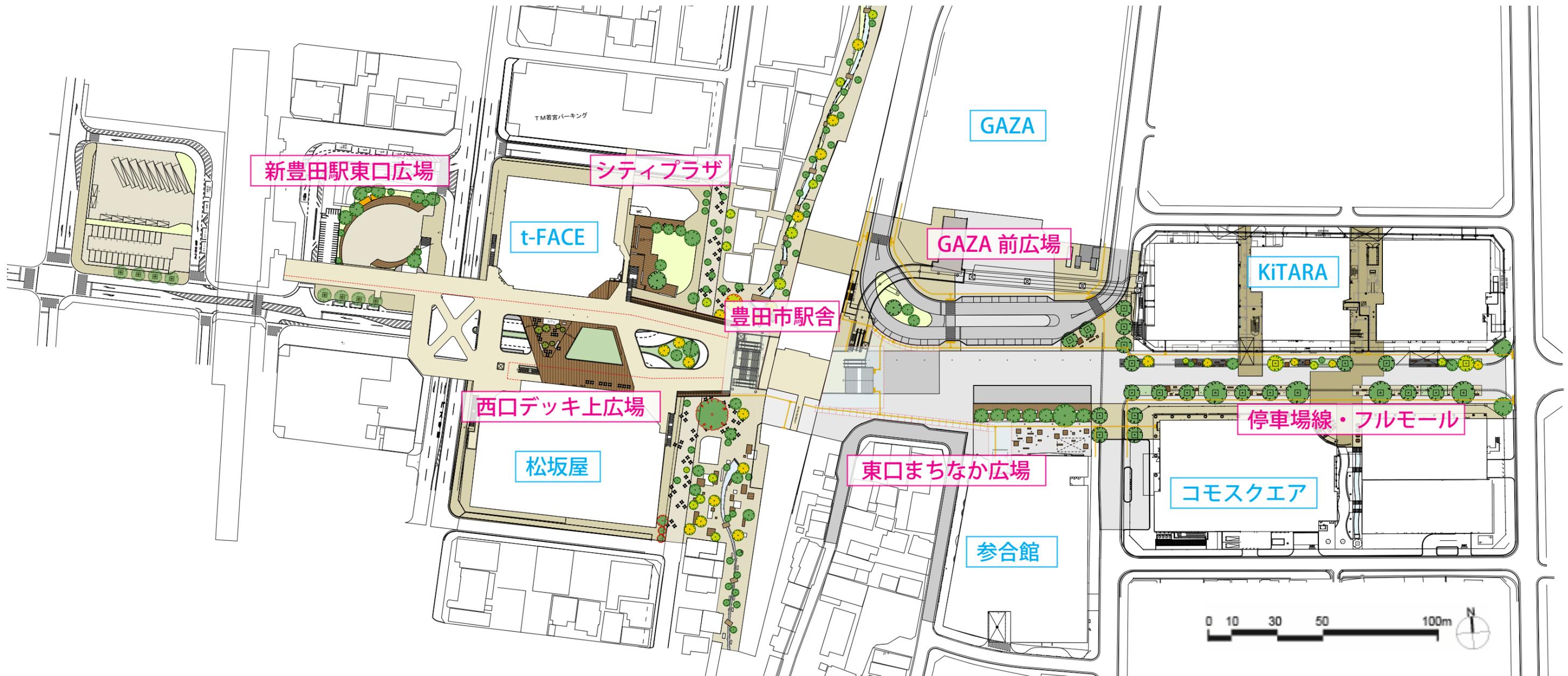


将来の構想

将来の構想のイメージです。

実証実験を繰り返すことで使い勝手の良い駅前を目指します。

バスターミナル



豊田市空間デザイン基本計画（案）

TOYOTA CITY

URBAN SPACE DESIGN

BASICAL PLANNING BOOK

2017年度版

本編

第一部
プラン

第1章

とよた魅力創出重点ゾーンの未来

1-1	ステートメント / 理念 豊田市空間デザイン基本計画(案)が伝えたいこと	08-11
1-2	豊田市空間デザイン基本計画(案)が思い描く未来 午前10時 新豊田駅東口広場の風景 午後12時 西口デッキ上広場の風景 午後2時 東口まちなか広場の日常風景 午後2時 東口まちなか広場の祝祭風景 午後3時 停車場線の風景 午後7時 東口まちなか広場の夜景	12-19

第2章

カスタマイズとよた!でつくる新しい豊田の都心

2-1	市民参加によるデザイン決定プロセス	21-25
2-2	「カスタマイズとよた!」の8つのポイント	26-29

第3章

新しいとよたの都心デザイン

3-1	矢作口と毘森口	32-37
3-2	都心全体プラン	38-41
3-3	広場のデザインイメージ	42-47
3-4	アーバンファニチャーのデザインイメージ	48-51

第4章

ロードマップ

4-1	今後のスケジュールと段階整備	54-56
-----	----------------	-------

付属資料

第二部
デザイン

第5章

「つくる」：魅力創出重点ゾーンのデザイン

5-1	「つくる」チームの考え方と取組み	5-5	素材 / マテリアルの考え方
5-2	各ゾーンについて 当面の目標 将来の構想	5-6	要素別デザイン 舗装・縁石 屋根・庇 建築の開き方 照明 ベンチ・テーブル プランター サイン ポラード・横断防止柵・手すり
5-3	現状分析の手法と設計の評価		
5-4	ゾーン別デザイン 新豊田駅東口広場 西口デッキ上広場 西口デッキ下停留所 シティープラザ 駅南西スペース 豊田市駅舎 東口まちなか広場 GAZA 前広場 参合館前広場 停車場線・フルモール	5-7	とよた未来デザインセンターについて とよた未来デザインセンターの意義と位置づけ
		5-8	とよた未来デザインセンターのデザイン 1) 事例 2) 場所 3) 平面図

第三部
プロセス

第6章

「つかう」：魅力創出重点ゾーンのマネジメント

6-1	「つかう」チームの考え方と取組み
6-2	2015・2016年度の実証実験紹介
6-3	公民連携による取組みの考え方
6-4	4つのゾーンで行う「つかう」の取組み